

❀ はたちの主張 ❀

感謝の気持ち

二十歳を迎えるにあたって、この20年を振り返ると、節目節目で沢山の人の心を動かされ、成長することができました。正直、楽しいことよりも、もがいて努力していることの方が多い20年でしたが、どんなに辛くても進み続けることができたのは、恩師、友人、そしてなによりも家族の支えがあったからだと強く感じています。

中学時代のブラスバンドと向き合った時間は、後にも先にもない一番の宝物となりました。コンクールや定期演奏会に向け、厳しい練習に真剣に向き合った当時は、どうしてこんなにしんどい思いをして音楽をしているんだと、仲間と泣いた日々でした。しかし、年を重ねるにつれ、中学生の私たちに真正面から真剣に向き合ってくださいと顧問の先生方がたみを、ひしひしと感じています。何かに真剣に向き合い、やり遂げることの大切さや達成感、そして仲間の大切さを教えてくださったことは、私にとって一生の財産になりました。心から感謝しております。

高校生になると、高いレベルで文武両道をこなす友人に囲まれ、自分のできなさに

劣等感を感じる日々が続きました。しかし、お母さんからの「みんな目指しているゴールが違うんだから、人と比べなくていい。自分の目標が達成できたらそれでいいんだよ」という言葉のおかげで、折れかけていた心を立て直し、自信を持って受験に向き合うことができました。おかげで、今では客室乗務員になるという小学生からの夢の実現に向けて、同じ目標を持った素敵な仲間と充実した大学生活を送ることができています。必要な時に、大事な言葉をくれるお母さんと、何とかなると私を信じて見守ってくれるお父さんの支えがあったからこそ、今楽しく学び続けることができています。夢を叶えて恩返しできるよう、1日1日を大切に頑張ります。

大学では、素敵な教授に出会い、人としてどうありたいかを考える機会が増えました。その中で、「今ある成功は自分の努力のおかげだと思わないこと」という言葉が私にとって大切な価値観になりました。「努力できる環境があるからこそ成功できたのであって、自分の努力だけでは成功できない。だからこそ、努力できる環境を与えてくれている周りへの感謝を決して忘れてはならない」という考え方です。今まで自分が頑張れば結果は付いてくると思っ

ていた私にとって、盲点であり、そこまで考えが及ばなかったことに反省しました。当たり前の中に細やかな気付きを持ち、感謝できる人になりたいと思います。

最後に、この20年のさまざまな経験を振り返ると、人として大切なことを沢山の方から気付かせていただいたと心から思います。その中でも、いつ何時でも感謝の気持ちを忘れないことは全ての方から共通して教えていただきました。学歴や職業、地位といった分かりやすく人を評価する外面的なものに、大人になるにつれ欲がでるのは事実ですが、そのようなステイタスを取った時に誇りを持てる自分であり続けられるよう、沢山の方から教えていただいた感謝の気持ちを忘れずに、豊かな心を持った大人になっていきたいと思っています。

改めまして、この20年、私を支えてくれた家族、恩師、友人を始めとした全ての方々に感謝いたします。

令和7年3月16日 尾前 奈那